

BUILT FOR PRO TOOLS | HD[®]



DVR2

DIGITAL VINTAGE REVERB

FROM THE LEGENDARY SYSTEM 6000

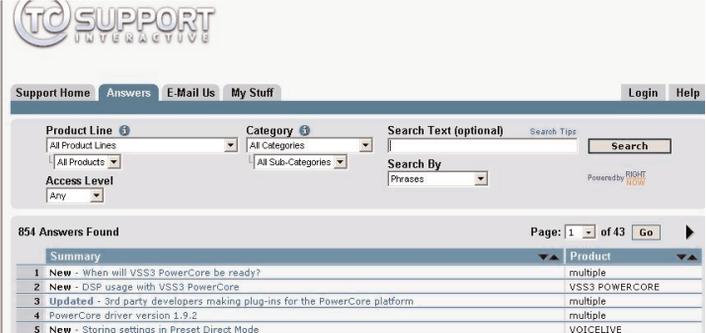
ユーザーマニュアル

t.c. electronic
ULTIMATE SOUND MACHINES

TC Support Interactive について

TC Support Interactive (www.tcsupport.tc) は、オンラインのサポート及び情報提供のためのウェブサイトです (英語のみ)。TC Support Interactive では、TC ソフトウェア／ハードウェア製品に関する一般的な質問の解答を、製品／カテゴリー／キーワード／フレーズから検索可能です。一度サイトで登録を行えば、「My Stuff」セクションから、質問の状況を調べたり、製品マニュアルやソフトウェア・アップデート、プリセット等のダウンロードも行えます。

データベースは TC 製品に関する最新の情報が満載で、情報は随時更新されています。お求めの情報がデータベースにない場合は、質問を提出することも可能です。この場合は、TC のテクニカル・サポートのスタッフが電子メールでご連絡させていただきます。



The screenshot shows the TC Support Interactive website interface. At the top, there is a navigation bar with links for 'Support Home', 'Answers', 'E-Mail Us', 'My Stuff', 'Login', and 'Help'. Below this is a search section with dropdown menus for 'Product Line' (set to 'All Product Lines') and 'Category' (set to 'All Categories'). There is also a 'Search Text (optional)' field and a 'Search' button. Below the search section, there is a table titled '854 Answers Found' with a 'Page: 1 of 43' indicator. The table has two columns: 'Summary' and 'Product'. The first five rows of the table are as follows:

	Summary	Product
1	New - When will VSS3 PowerCore be ready?	multiple
2	New - DSP usage with VSS3 PowerCore	VSS3 POWERCORE
3	Updated - 3rd party developers making plug-ins for the PowerCore platform	multiple
4	PowerCore driver version 1.9.2	multiple
5	New - Storing settings in Preset Direct Mode	VOICELIVE

連絡先

インターネット以外でのお問い合わせにつきましては、各地域の TC 支社または輸入代理店までご連絡ください。

TC ELECTRONIC A/S

Customer Support

Sindalsvej 34

Risskov DK-8240

Denmark

USA:

TC Electronic Inc.

5706 Corsa Ave. Suite 107

Westlake Village, CA 91362

www.tcelectronic.com

© BY TC ELECTRONIC A/S 2006. ALL PRODUCT AND COMPANY NAMES ARE TRADEMARKS OF THEIR RESPECTIVE OWNERS. ALL SPECIFICATIONS SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL RIGHTS RESERVED. TC ELECTRONIC IS A TC GROUP COMPANY.

目次

サポート情報及び連絡先	2
目次	3
DVR2 Digital Vintage Reverb へようこそ	4
動作環境	5
グローバル・コントロール	5
プラグイン・パラメーター	7
プリセット管理	10
System 6000 / Reverb 4000 の DVR2 プリセットをコンバートする方法	11
A/B 比較	12
Parameter Lock (パラメーター・ロック) による設定値のロック	13

DVR2 DIGITAL VINTAGE REVERB へようこそ

この度は、TDM 用のヴィンテージ・リバーブ・プラグインをご購入いただき、ありがとうございます。DVR2 は、真のヴィンテージ・フレイバーを持つジェネリック（汎用）タイプのリバーブです。

ジェネリック・リバーブでは、ミックス内の素材単体を対象に、その素材の音を引き延ばす効果を得られます。原音に微量のみキャラクターが加わりますが、その変化は全体に埋もれるためにその点は音質の保全の観点からは悪影響とはならず、逆に効果的な特徴としてスペース感とモジュレーションを与えることができます。

クラシック機の再現

DVR2 は、歴史上最高峰のジェネリック・リバーブと名高い EMT250 のサウンドを再現することを目的として、数年の研究開発を経て作成されました。開発には、特に音の良い個体をメンテナンスした上で使用しています。DVR2 の開発には、幅広い観点から EMT250 が研究されました。

ハードウェア：エンファシス、ブロック・スケーリング、リアリティ、フィルター等、80年代当時のコンバーターの実装手法による精度と特性、及び RAM 容量、処理能力、サンプルレート等。

ソフトウェア：ディスクリット回路の処理によるトランケーションの種類とノイズフロア近辺の特性、低サンプルレート処理の忠実な再現、そしてそれら演算のモダンな DSP プラットフォームへの移植。

聴感：オリジナルのプロセッサの質感の維持。スイートなモジュレーション、スペクトラル特性、空間、ディストーション、サチュレーション等。数百時間にも及び計測とリスニングテスト。

ユーザー：EMT250 の 4 つの基本パラメーターのレイアウトに気を使い、極めてシンプルなインターフェイスで内部パラメーターの複雑で高度に最適化された相互作用をコントロールすることを可能に。パラメーターの解像度とレンジもオリジナル機を見本としています。

クラシック機の超越

DVR2 の Normal モードでは完璧にアラインされた 250 に極めて近いサウンドが得られますが、莫大な DSP パワーを使用してオリジナル機の再現を行っている利点として、アルゴリズムを High Resolution モードで作動させることが可能となっています。High Resolution モードでは、ノイズフロアを大幅に下げることができます。用途と好みに合わせて、原音の忠実度と純粋な音質面の精度いずれかを選択できます。

上に記した本プラグインの基礎となる条件と制限はノンリニアな特性を持つため、オリジナル機の特長サンプリングによる再現の試みはスタティックで粗野な結果にしかなり得ません。微細なディテールに及びエミュレーションは特性の忠実性の観点から優位だけでなく、その特性をユーザーが調節することを可能とする利点をもたらします。

動作環境

- Pro Tools TDM 6.9 または 7.x ソフトウェア
- Pro Tools HD または HD Accel ハードウェア
- iLok USB キー
- 製品のオーソライズには、iLok.com アカウント及びインターネット・アクセスが必要
- Digidesign 社による、Pro Tools TDM システムを使用する際の動作環境に準拠したシステム

グローバル・コントロール

キーボード・ショートカット

TDM 用の DVR2 では、次のキーボード・ショートカットが使用できます。次のショートカットは、全てのパラメーターに有効です。

キーボード・ショートカット：MAC OS X

- ファイン調節 = アップル・キー+マウス操作
デフォルト値への復帰 = オプション+マウス・クリック

キーボード・ショートカット：WINDOWS

- ファイン調節 = コントロール+マウス操作
デフォルト値への復帰 = Alt + コントロール+マウス・クリック

オートメーション

パラメーターによっては、オートメーションの際にノイズが生じます。これらのパラメーターをオートメーションする場合は、プラグインの入力が無音の状態で行ってください。

フォーカス・フィールド

操作上最も頻繁に使用するパラメーターを、画面の下にある6つのフォーカス・フィールドにアサインできます。こうすることにより、ページを切り替えることなく、重要なパラメーターを一括して表示・調節できます。

フォーカス・フィールドには、任意のパラメーターを割り当てられます。フォーカス・フィールドのアサイン状況は、プリセットを保存した場合に加え、セッションにも保存されます。

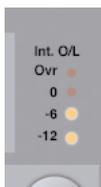
Assign 	Input Level 0.0 dB	Dry Level Off	Wet Level 0.0 dB	Decay 4.2 s	Pre Delay 125 ms	Hi Cut 13.0 kHz
--	-----------------------	------------------	---------------------	----------------	---------------------	--------------------

アサインの変更方法：

- 「Assign」（アサイン）ボタンを押します。Assign ボタンと、いずれかのフォーカス・フィールドがハイライトされます。
- 設定を変更したいフォーカス・フィールドをクリックして選択します。
- 選択したフォーカス・フィールドに割り当てたいパラメーターをクリックします。

- フォーカス・フィールドを空（パラメーターが割り当てられていない状態）にするには、再度選択されたパラメーターをクリックします。
- パラメーターのアサインが終了したら、再度 Assign ボタンを押します。Assign モードが終了します。

Int. O/L - インターナル・オーバーロード・インジケーター

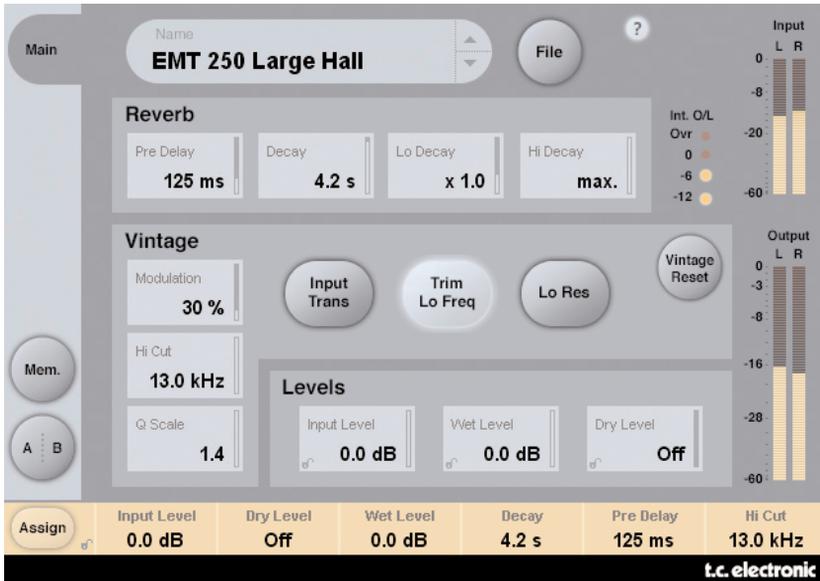


入力メーターの左にある O/L LED は、内部 DSP でオーバーロードが検出された際に点灯します。オーバーロードを回避するには、入力レベルを下げて下さい。表示をリセットするには、O/L LED をクリックします。

プラグイン・パラメーター

MAIN - メイン・ページ

DVR2 の MAIN ページには、DVR2 の全てのコントロールがまとめられています。プリセット管理に関連する操作も、このページから行います。プリセットの扱い方については、後述の「プリセット管理」セクションをご参照ください。



REVERB - リバーブ・セクション

Decay - ディケイ

設定レンジ：0.4～4.5s

マスターのディケイ・タイムを調節します。

Lo Decay (xLo) - ロー・ディケイ倍率

設定レンジ：0.5～2.0

低周波数帯域のディケイ倍率です。x1.0 の設定で、低域のディケイは Decay の設定と同一となります。

Hi Decay (xHi) - ハイ・ディケイ倍率

設定レンジ：0.25～Max.

高周波数帯域のディケイ倍率です。x1.0 の設定で、高域のディケイは Decay の設定と同一となります。

Pre Delay - プリディレイ

設定レンジ：0～500 ms (Vintage 時：0 / 20 / 40 / 60ms)

信号が入力されてから、リバーブの立ち上がりが出力されるまでの時間です。

VINTAGE - ヴィンテージ・セクション

Modulation - モジュレーション

設定レンジ：0～200% (デフォルト：100%)

モジュレーションの深さを調節します。通常は100%で使用します。よりコーラス感の強いサウンドを得るには、この値を上げます。

Hi Cut - ハイカット

設定レンジ：8kHz～13kHz (デフォルト：11kHz)

DVR2のハイカットを調節し、高周波数成分の伸びを制限、または拡張できます。

Q Scale - Q スケール

設定レンジ：0.3～1.4 (デフォルト：1.2)

このパラメーターは、電気部品の個体差によるサウンドの違いを補正 (EQ) するために旧型のハードウェア機の内部に用意されていたポテンションメーターに相当します。Hi Cut との組み合わせで、高域のバランスを調節します。

Input Trans - 入力トランス

設定レンジ：On / Off (デフォルト：Off)

ヴィンテージ・リバーブ機に多く採用されていた入力トランスをエミュレートします。よりヴィンテージ・ライクなサウンドを得られます。特に短いディケイ・タイムの設定で使用している際に、良い結果が得られます。

Trim Lo Freq - 低周波数トリム

設定レンジ：On / Off (デフォルト：On)

低域の特定の帯域を微妙にダンピングします。

Lo Res - 低解像度

設定レンジ：On / Off (デフォルト：On)

DVR2をより低いビット解像度に切り替えます。より粗く、古いサウンドが得られ、ヴィンテージ・リバーブ機をシミュレートしたノイズを得られます。

Vintage Reset - ヴィンテージ・リセット

Vintage セクションの設定を、オリジナル機同様の値にリセットします。

LEVELS - レベル・セクション

Input Level - 入力レベル

設定レンジ： Off ~ 0dB

プラグインの入力レベルを設定します。フルスケールに近い信号を入力する場合は、ここでの設定を下げる必要が生じる場合があります。プラグインがオーバーロード (O/L) した場合には、このレベルを下げてください。

Wet Level - ウェット・レベル

設定レンジ： Off ~ 0dB

ウェット信号（リバーブ成分）の出力レベルを調節します。

Dry Level - ドライ・レベル

設定レンジ： Off ~ 0dB

出力チャンネルのドライ信号のレベルを調節します。典型的なセンド／リターン構成で使用する場合は、Dry Level を OFF にします。

プリセット管理

プリセット管理はファイル・ベースで行ないます。これは、極力理解しやすく、シンプルにプリセットを管理するための配慮で、ユーザーのワークフローに合わせた形でプリセットを整理でき、他のホスト・アプリケーションやプラットフォームを使用している環境との間でもプリセットの交換が簡単に行える利点をもたらします。プリセットは、それぞれ個別のファイルとしてハードディスク上に保存されます。一度プリセットをデフォルトの位置に保存すると、プラグインを使用する時に自動的に「FILE」メニューに選択肢としてあらわれます。サブフォルダにも対応しているため、ユーザーの希望する作業スタイルに合わせて、削除、移動、新しいサブフォルダの作成などを行えます。

NOTE: フォルダ内に最低一つのプリセットが含まれていないと、フォルダはプリセット・ファイル・メニューに表示されません。

プリセットの移動

プラグインの MAIN ページのプリセット名表示横にある▲▼ボタンをクリックすることより、次／前のプリセットに移動できます。



デフォルトのプリセット保存場所にある全てのプリセットを選択できるため、理論的にはこの方式で全てのプリセットをアクセスすることができます。特定のプリセットを直接読み込むには、FILE ボタンを使用します。

PRESET FILE MENU - プリセット・ファイル・メニュー

FILE ボタンを押すと、ファイル・メニューが開き、次の操作が行えます。

プリセットのロード

LOAD を選択すると、共有フォルダを含む、システム上で読み込み権限のある任意のフォルダを選択できます。デフォルトでは、DVR2 プリセットのデフォルト位置からロードされます。ポップアップ・メニューには、DVR2 プリセット保存用のデフォルト位置にあるプリセットのみが表示されます。

プリセット名の変更

- プリセット名フィールドをクリックします。
- 新しいプリセット名を入力します。
- Enter を押します。

プリセットの保存

SAVE を選択すると、共有フォルダを含む、システム上で書き込み権限のある任意のフォルダを選択できます。デフォルトでは、DVR2 プリセット保存用のデフォルト位置に保存を行います。

プリセット・ファイルの保存場所

DVR2 プリセットは、次のプラグイン固有のフォルダに保存されます。プリセットは、プラグイン毎に独自のフォルダ内に収められます。プラグイン自己のプリセット管理は、次の場所を使用します。

Mac OS X

ファクトリー・プリセット:

/ Library / Application Support / TC Electronic / DVR2 / Presets /

ユーザー・プリセット:

~/ Library / Application Support / TC Electronic / DVR2 / Presets /

Windows

ファクトリー・プリセット:

(システムドライブ) / Program Files / TC Electronic / DVR2 / Presets

ユーザー・プリセット:

My Documents / TC Electronic / DVR2 / Presets

- プリセットを消去するには、ゴミ箱に移動します。
- プラグイン・メニューでサブフォルダが表示される様にするには、DVR2 のデフォルトのプリセット保存場所にある PRESETS フォルダ内に新しいフォルダを作成します。

NOTE: フォルダ内に最低一つのプリセットが含まれていないと、フォルダはプリセット・ファイル・メニューに表示されません。

System 6000 / Reverb 4000 の DVR2 プリセットを コンバートする方法

System 6000 または Reverb 4000 をお持ちの場合は、それらの DVR2 プリセットを読み込むことができます。

System 6000 / Reverb 4000 のプリセットを DVR2 用にコンバートするには、まず System 6000 / Reverb 4000 のプリセットをプリセット・ファイルとして保存する必要があります。 .syx と .mid のファイル形式に対応します。

System 6000 / Reverb 4000 のプリセットをエクスポートする最もシンプルな方法は、Mac/Windows 用 Icon Editor (バージョン 3.5 以降) の「export to file」機能を使用することです。System 6000 ではバンクをフロッピーに保存するか、シーケンサーの MIDI ファイルに SysEx ダンプを行なう方式も使用できます。

NOTE: System 6000 / Reverb 4000 のプリセットをエクスポートする方法に関する詳細は、それぞれの製品マニュアル、及び Icon Editor のマニュアルをご参照ください。

作成された SysEx / MIDI プリセット・ファイルは、DVR2 プリセットのデフォルトの保存場所に配置します（ルートのみ；サブフォルダは使用できません）。ファイルは「.syx」、MIDI ファイルの場合は「.mid」の拡張子が必要です。

NOTE: DVR2 プラグインと同じコンピュータで Icon Editor を使用している場合、DVR2 は Reverb 4000 / System 6000 ファイルのデフォルトの保存場所を自動的に検索するため、ファイルをコピーする必要はありません。

プリセット・ファイルを DVR2 プリセットのデフォルトの保存場所に配置した後は、次回 FILE ボタンを押した際に選択肢として表示されます。ポップアップ・リストの一番上に「CONVERT」（コンバート）というセクションが表示され、プリセット・ファイルがリストに表示されます。

プリセット・ファイルを DVR2 プリセットにコンバートするには、プリセット・ファイルを選択します。コンバートを必要とするのは一度のみで、変換は数秒で完了します。

変換が完了すると、プリセット・ファイルと同じ名称のサブフォルダが作成され、その中にプリセット・ファイルに含まれていたプリセットが保存されます。System 6000 からコンバートする場合は System 6000 のバンクの構造は維持され、DVR2 以外のアルゴリズムを使用したプリセットは変換されません。

この段階で、プリセット・ファイルはファイル・メニューの Convert セクションの選択肢から外れます。

NOTE: DVR2 プラグインはステレオのみのため、プリセットをコンバートする際に System 6000 のサラウンド設定は無視されます。

A/B 比較

A/B 比較の機能により、二つの設定を比較しながら作業を進めることができます。

A/B 比較を行なうには、「Mem」と「A/B」の2つのボタンを使用します。



プリセットの操作をはじめた段階では、A/B ボタンは灰色で表示されます。この状態は、A と B の内容は同一で、比較する内容がないことを示します。

パラメーターを一つでも変更すると、メモリー「A」がアクティブとなり、A/B ボタンの「A」の部分が光ります。パラメーターの変更内容は全て「A」に反映されます。「B」に変更すると、始点に戻り、そこからの変更は全て「B」に反映されます。

A/B ボタンを押すごとに、この二つの状態が切り替わります。

NOTE: A/B メモリーは、あくまでも一時的な設定の保存場所です。FILE ボタンや、セッションの保存によるプリセットの保存は、現在選択されているメモリー場所のみを保存します。他の（隠れた）メモリー場所の設定は、保存されません。

「MEM」ボタンを押すと、A/B メモリーが現在の設定にリセットされます。

PARAMETER LOCK (パラメーター・ロック) による設定値のロック

パラメーター・ロック機能は、プリセットの変更時に / Input Level / Out Level / Dry Level / Wet Level、そしてフォーカス・フィールドのアサイン状況が変わるのを防ぎます。

この機能を使用することにより、DVR2 のプリセットをブラウズする際に、プリセット毎にこれらを調節し直す手間を省きます。

パラメーターをロックするには、パラメーターのフィールドにある小さいロックをクリックします。ロックを解除するには、再度クリックします。

パラメーター・ロックは、マウスによるパラメーターの変更のみをロックします。プリセット・チェンジやホストからのオートメーションなどの動作による変更は、パラメーター・ロックの状態に関わらずプラグインに反映されます。

一つの例を示します。DVR2 を特定のチャンネルにインサートしたとします。DVR2 をインサート・エフェクトとして使用している場合は通常ドライ信号も聴こえる状態にしたいので、Dry Level を上げたいとします。



いくつかのプリセットを試したい場合にプリセット名の右側にある上下矢印のボタンで切り替えを行なうと、ほとんどのプリセットでは Dry Level が「OFF」になっているのが確認できます。この場合では、プリセットを変更する度に Dry Level が頻繁に「OFF」に切り替わってしまい、不便です。



ここで、パラメーター・ロックを試します。Dry Levelのパラメーター・フィールドにあるロックをクリックすると、その後にマウスでプリセットを切り替えた際にも、Dry Levelの値がそのまま維持されます。

パラメーターに触れるかオートメーションのデータを送ると、ロックは自動的に解除されます。